

昔日モラトリアム

Moratorium of the Past



この作品はフィクションです。実際の人物・団体・事件などには一切関係ありません。

昔日モラトリアム

Moratorium of the Past

この作品はフィクションです。実際の人物・団体・事件などには一切関係ありません。

< 東佑助



今日



今日どんなパジャマ着てるの？

22:47

青と黄色の

22:48

星が入ってるやつ

22:48



可愛いw

22:48



もうベッド？

22:48

まだ寝ないよ

22:49

もうちょっと喋りたい

22:49



やったw

22:49



写真見たいなー

22:49

パジャマ？

22:49



ほかにも見せてくれるんなら色々w

22:49

いいよ

22:49




高校二年生の東佑助は、帰り道にいじめられていた中学一年生の灯と出会い、

家に招き入れ衝動のまま一線を越えてしまう。

だがその直後、彼が付き合っていた廣瀬朱莉の弟だと知った佑助は別れを選ぼうとするが灯は自分の意思で再び佑助の前に現れる。

密室のカラオケで二人は気持ちを確かめ合い、身体を重ね、連絡先まで交換してしまう。



舐めれる？



.....
え

疎いなあ
佑助君本当に
そっち系
興味ある？



口でしてくれるなら
もっとお金あげるけど

あと動画と写真と..
正直こんなトコより
ホテル入れたら
助かるんだけどね

出張とはいえ
おじさんこんなトコまで
遠くから来てるから
なあ

ズン
どう？
しゃぶれる？



初めてのくせに
結構上手いじゃん

[匿名さん]
535 2021/05/06 02:39
明日の昼 日暮市碧ヶ崎周辺のトでだれかいる?

[きばりやさん]
536 2021/05/06 02:43
>>535
中学生なんですけど 歳近い人探してます

[匿名さん]
535 2021/05/06 02:44
>>536
やば(笑)詐称?プロフいい?

[きばりやさん]
536 2021/05/06 02:47
>>535
中二 身長159cm体重は50キロくらいです。

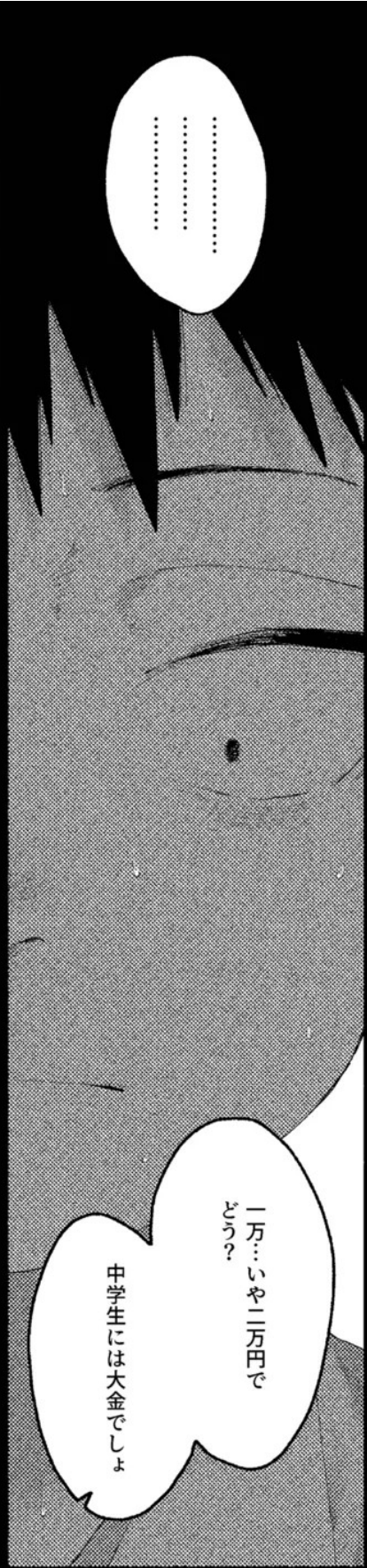
[匿名さん]
537 2021/05/06 02:48
>>535
四つん這いとかせてチン
よかったらやりませんか?

[匿名さん]
535 2021/05/06 02:48
>>536
もしホン
歳もそん
[きばりやさん]
532 2021/05/06 02:48
明日の午
だれか見
[匿名さん]

男が好きなのは
沢山いたけれど

流石に中学生とか
年の近い子は
いなかった

フ入れて稲森の湯行きます



一万...いや二万円で
どう?
中学生には大金でしょ



ハイもう離して
いいよ

ロン中の
全部飲める?

ゴクンって



次そこ立って
下全部脱ごっか

おじさんが
気持ち良く
してあげる

ネットで見つけた
掲示板

れ

あっ……………

勝手に腰が震えて
声も漏れた

舌先が這い
口全体で
吸い付いてくっつく

っ……!

まともに立って
いられなくて

理性の糸が
ほどけていくような
感覚に襲われた

めう

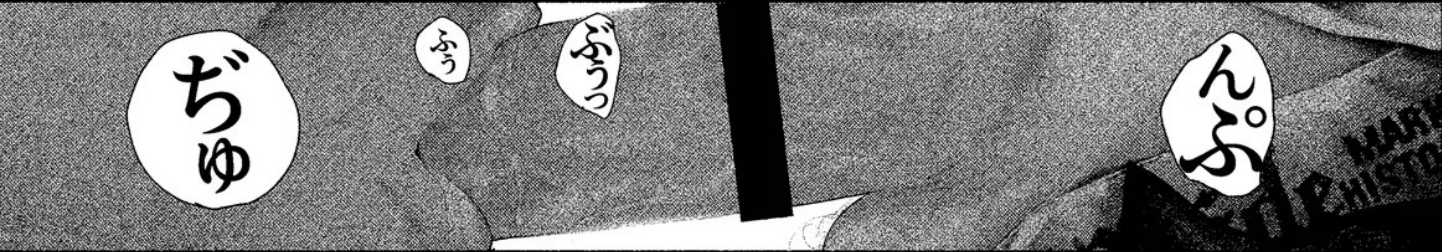
気持ち悪いと
頭では思いながらも



会ったばかりの
おじさんの口の中

名前も知らない

初めての射精は



ぢゅ

ふう

ふう

んぷ



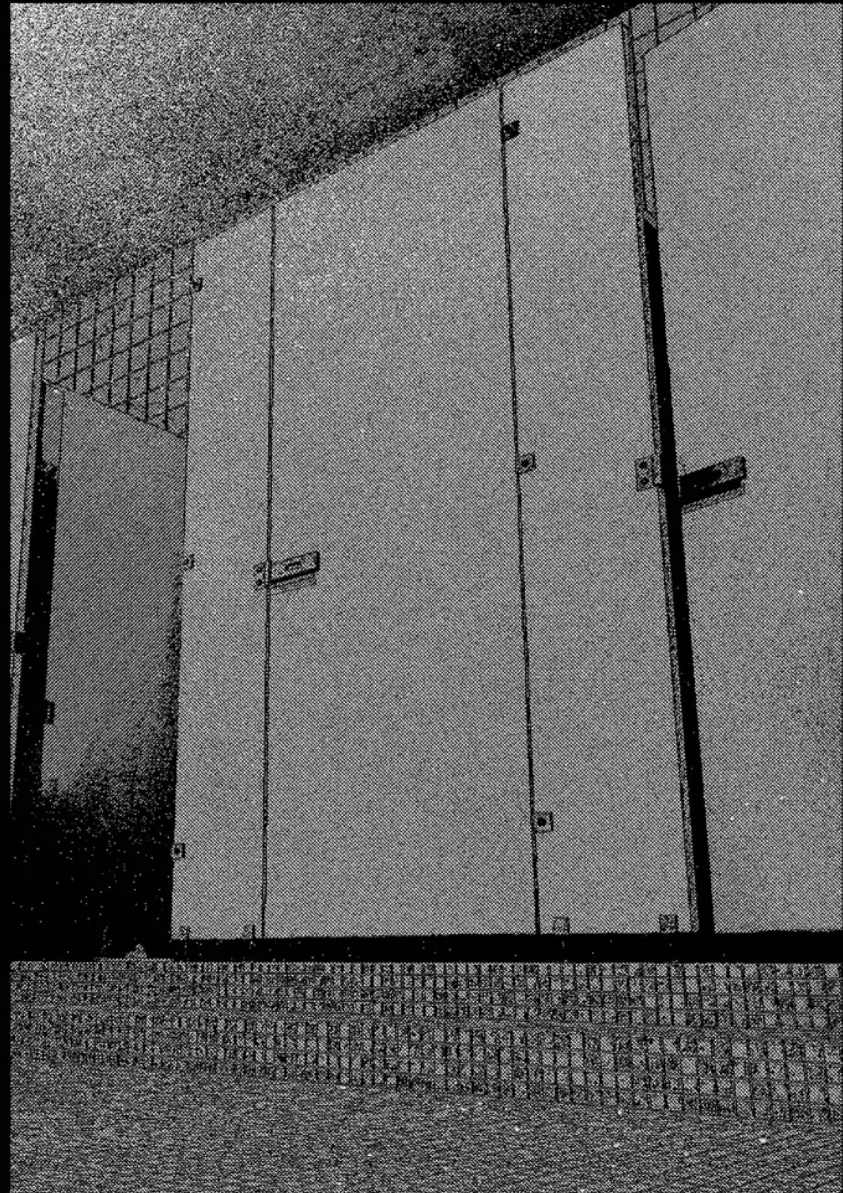
胸から下を
ひどじきり
撫て回したあと

公園の自販機で
コーラを買って
話を聞いてくれた

色々思い出して

家に着いた瞬間
めちやくちや吐いた

良い人なのかも……と
一瞬思ったけれど



本当は
2組の拓海君が
好きだったけど

同性に告白する
勇気なんて
自分には
一切なかった

よかったら
付き合わない？

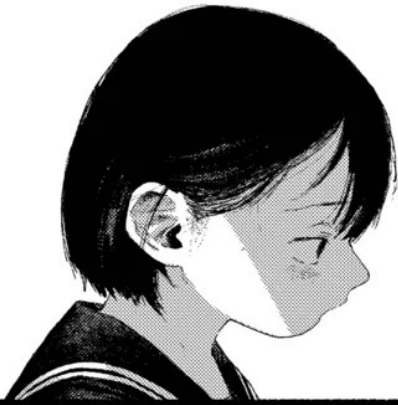
私と……

……え？

に……2回も
言わせないでよ

1年の時から
ずっと友達として
だったけどさ
付き合ったら
もっと楽しいかな
って……

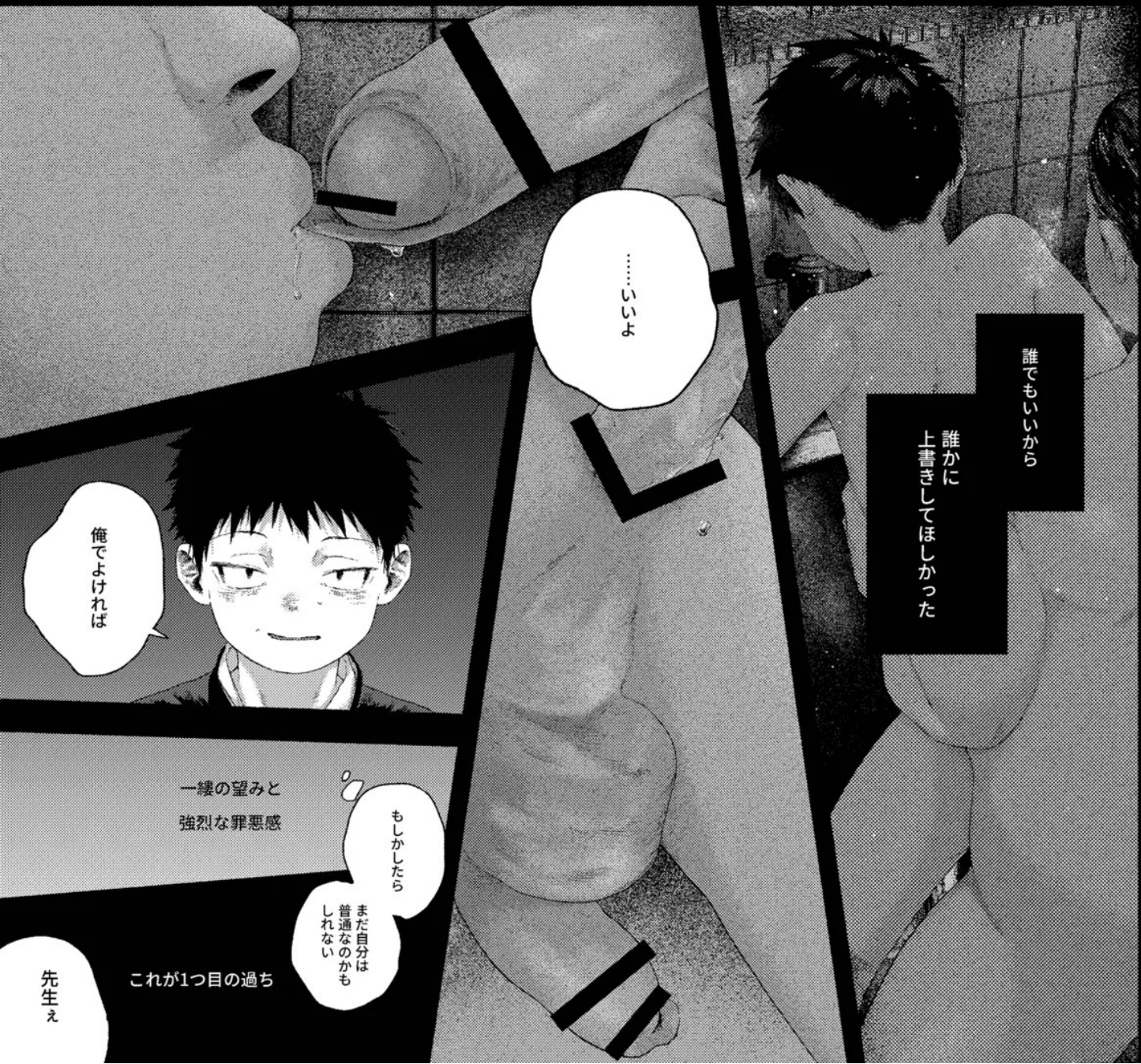
廣瀬朱莉に
告白されたのは
中三になる年の
一月



……思ったんだけど
 どうかな



とにかく今すぐ



……いよいよ

誰でもいいから

誰かに
 上書きしてほしかった

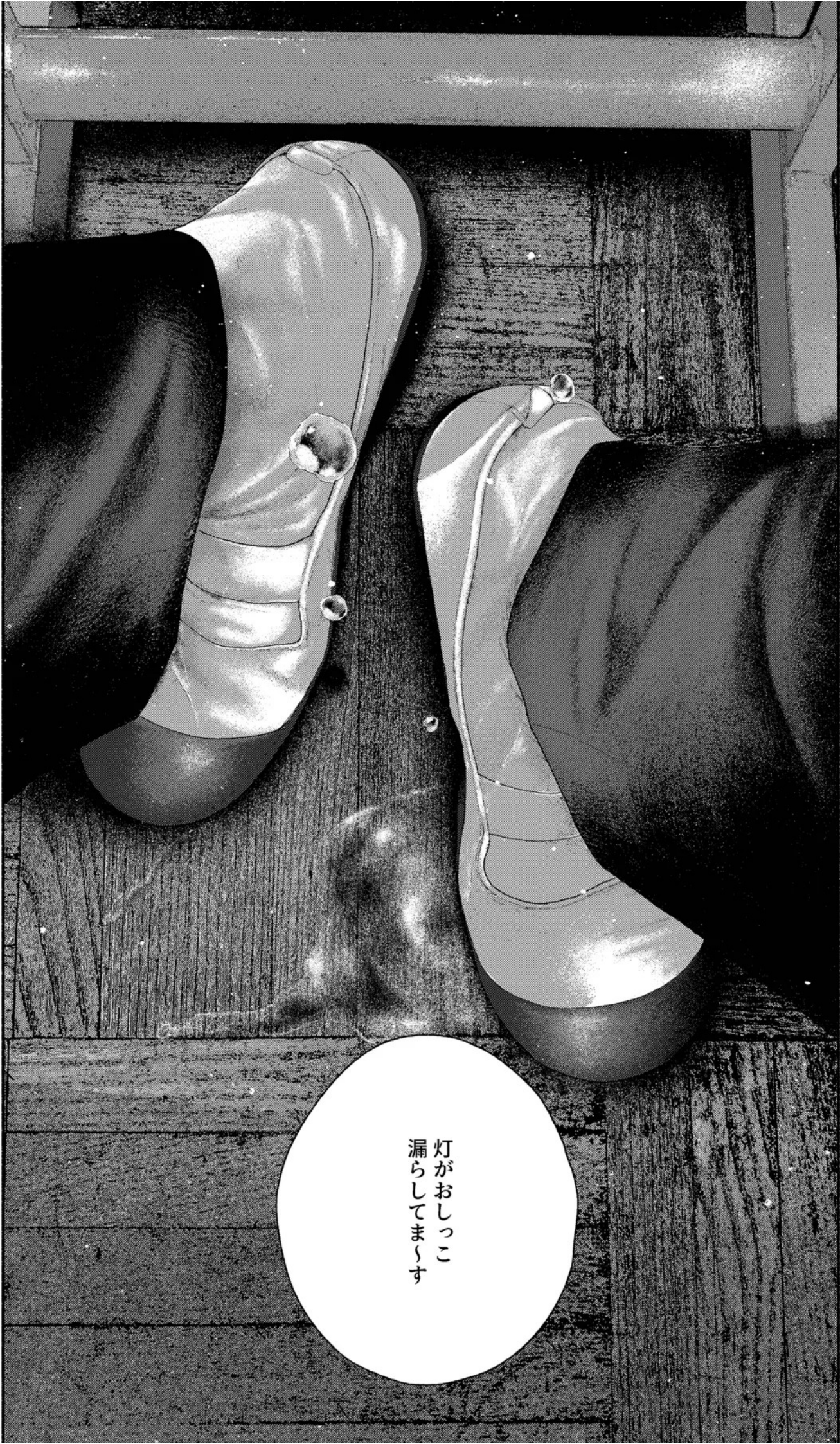
俺でよければ

一縷の望みと
 強烈な罪悪感

もしかしたら
 まだ自分は
 普通なのかも
 もしれない

これが1つ目の過ち

先生え



灯がおしっこ
漏らしてまゝす



誰か
雑巾とバケツ
用意して…

保健委員さん
お願いできる？



うげ

きったな!!

まし?

漏らした!?

うわ

ほらそうやって
騒がないで!

みんな板書に
集中しなさい

床!床に
垂れてる!



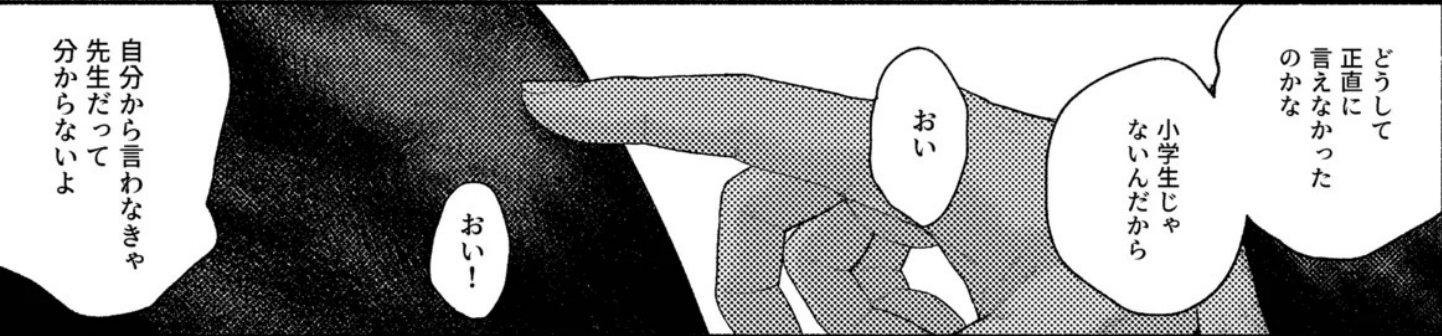
もう
中学生だよ?

我慢できないなら
手を挙げたり
直接伝えに来なさい



廣瀬くん

休み時間に
トイレ
行かなかったの?



どうして
正直に
言えなかった
のかな

小学生じゃ
ないんだから

おい

おい!

自分から言わなきゃ
先生だって
分からないよ



「トイレ行きたいって
恥ずかしくて
言えませんでした」

って言え

正直に喋ったら
ぶっ飛ばすからな



トイレに……
行きたいって

は……

恥ずか

しくて……
言えませ
ん……



……と……



あ……うん
次からちゃんと
言えるよう
になろうね？

立花君
一緒に保健室
行ってくれる？

ワズ

ワズ

ワズ

は……はい



本当にごめんね



ねえ……！



……あの

……灯くん

僕らのせいで

中学になっても
あいつらに
色々されて

せ……先生にさ

もっとちゃんと
説明するのは
どうかな

6組の
石田先生とかは？

うちの
顧問の先生も
頼りになる
かも……！

あ……僕野球部
なんだけど

……べつに

先生が嫌だったら
先輩にも相談して
みるとかっ……

言ったら
余計何かされる
だけだし

もう慣れたから
平気

それに



おかげで
知り合えた人もいるから

悪いことばっか
じゃないよ



誰……？

自分で行くから

もう
ついてこなくて
いいよ

内緒。



……？

知り合えた人って



……教室でも
話しかけない方が
いいと思う



また狙われたく
ないでしょ



あららまた
やっちゃったん
だねー…



保健室

汚したのは
袋の中
入れちゃって…

保健室衣類貸出票

日付: 2024年 11月 29日 氏名: 廣瀬 十

理由: P袋に含みませんでした。

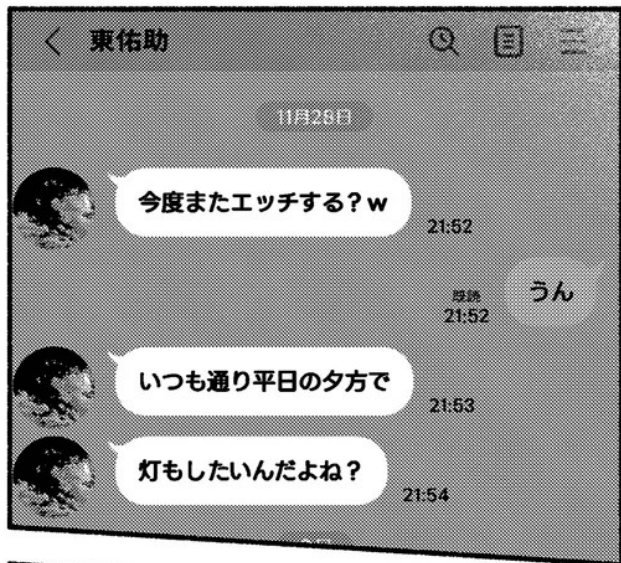
いつも通り
貸出表に
名前書いて

親御さんに
用紙渡してね

| 品目 | サイズ | 返却 |
|-----------|-----|-------------------------------------|
| パンツ 男 女 | 150 | <input checked="" type="checkbox"/> |
| 下着 インナー | | <input type="checkbox"/> |
| 衣類 体操服(上) | | <input type="checkbox"/> |
| 衣類 体操服(下) | | <input type="checkbox"/> |



♪



今度またエッチする? w

21:52

うん

母読
21:52

いつも通り平日の夕方で

21:53

灯もしたいんだよね?

21:54



急だけど今日ウチ来れる?

16:50

おい
聞5の5



やっちゃん



廣瀬君はこの後
帰るだけだよな?

先生が教室に
カバン取りに行って
あげようか?

次はアイツに
なにすんの？

また水攻め
やる？

宝探しは？

今度はもうちょい
効くやつにしね？

給食中とかさ…
いつも食べるの
遅えじゃん

同じことばっか
つまんなくない？

スloopに
小便いっしょでも入れる？

流石にやりすぎじゃね？
この前もヤバかったし

やめようとか
言い出すなら
もういいけど？

てか

は？別に
法律違反してねーし

おいまた
始まったよ

ユウト空気読めって！
遊びなんだし

じゃ明日は
下着没収な

体育の着替え
全員で……



灯じゃね



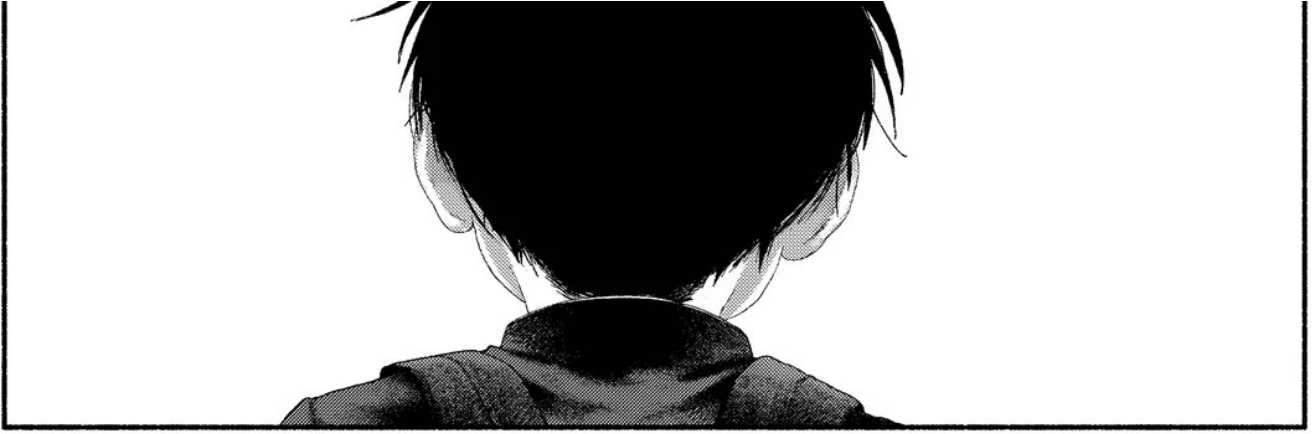
え？
保健室から
直帰？

いつも律儀に
俺らのところ来て
帰るのに……

すげえ走ってる
じゃん

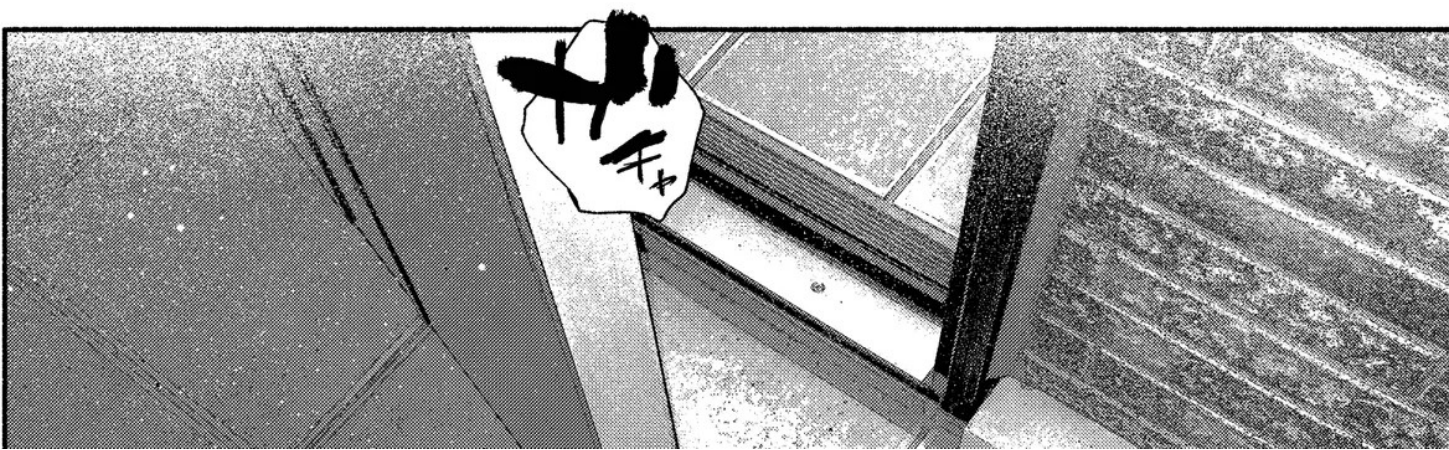
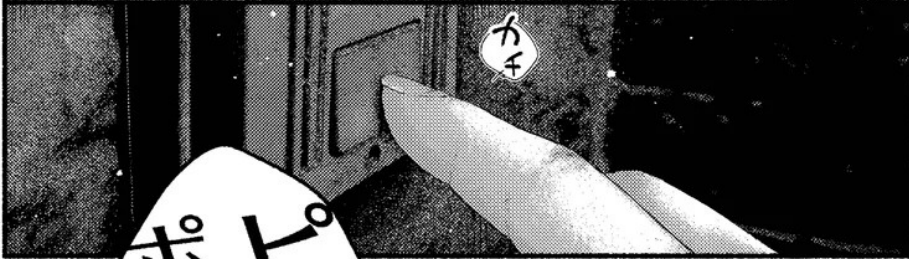


……おいアレ











さうじやう



.....



昔日モラトリアム
Moratorium of the Past

あなたへ。

もし、誰かと一緒にいるときだけ
不安が遠のいて、心が安らぐ夜があるのなら、
それは弱さでしょうか。
それとも、自分を保つための手段でしょうか。

私には、まだ答えが出ません。

「間違いだ」と分かっているのに、
やめようとするほど、いっそう手放せなくなります。
離れようとするほど、離れる前のこと——孤独だった時間や、
どうにもならなかった気持ちを思い出して、
結局また、同じ場所に立ってしまう。

手放してしまったら、
今の自分が保てなくなる気がしてしまうのです。

きっと私は、
相手のためと言いながら、
相手にそばにいてもらうことで
自分を支えていたのだと思います。

助けたつもりが、助けられていた。
その事実を認めるのが怖かったのです。

だからあの子の体温に触れると、
安心と同じ速さで、怖さもやって来ます。

うれしいはずなのに、胸の奥が重たくなるのです。
これは「してはいけないこと」だと、
自分がいちばんよく知っているから。

いま私の手の中にあるのは、
赦しではありません。
現実から目を逸らせる、短い猶予なのです。

笑ったり、くだらない話をしたり、
並んで座っているだけで落ち着いたり。
そして、身体を重ね合ったり。
そういう何でもない時間が、
私には必要以上に大切に見えてしまう。
でも、その楽しさは長くは続きません。
楽しく思えば思うほど、終わりが見えてしまうのです。
だから私は、これを「救い」と呼びたくなる自分を、
何度も押しとどめます。

救いじゃない。
救いにしてはいけない。
そう言い聞かせながら、
それでも今日も、同じ場所に立っています。